

6. 丹沢山地における希少種蝶類の衰亡の現況

岩野秀俊¹⁾・山本嘉彰²⁾・菅井忠雄²⁾・美ノ谷憲久²⁾

Report on the Endangered Butterflies in the Tanzawa Mountains, Central Japan

Hidetoshi Iwano, Yoshiaki Yamamoto, Tadao Sugai & Norihisa Minotani

要 約

丹沢山地には絶滅の危機に瀕している希少な蝶類が生存していく上で必要不可欠な生息環境である草地や疎林などの自然環境がわずかながら残存している。そこで、西丹沢および裏丹沢方面を主体とした丹沢山地に生息している希少蝶類の生息状況についての把握を目的として現地調査を実施した。その結果、次のようなことが判明した。調査対象地域では、ほぼ予想されたすべての種類の生息を確認できたが、種類によっては確認頭数が少なく、また希少蝶類の主要な生息環境を形成している疎林地やススキ草原などの二次的自然環境の減少や狭小化に伴って個体数が減少し、個体群維持が危機的状況に陥っていると考えられる事例も認められた。絶滅危惧 I A 種に選定されたホシチャバネセセリ、スジグロチャバネセセリおよびヤマキチョウの 3 種は、神奈川県内では三国山を含む高指山一帯付近を中心とした山北町で生息していることが確認できた。しかし、それぞれ数例の確認記録しか得られず、その生息個体数は極めて少ないため、将来への継続的な世代の発生が懸念され、また同所の疎林内からは、キマダラモドキの生息も確認されたが、生息範囲は狭小であり、生息環境の悪化に伴い絶滅が危惧された。高指山に至る尾根筋では、絶滅危惧 I B 種であるヒメシロチョウとホシミスジの生息を確認したが、各々の食草・食樹が尾根筋沿いの草地に点在するため、稜線付近にある高圧線管理ならびに東海自然歩道管理のための登山道の草刈り時に、食草は原型をとどめないほど他の草と一緒に刈り取られてしまうため、幼虫数の激減に直結している可能性が強いと思われた。また、高指山山頂付近には、多くの貴重なヒョウモン類が飛来し、ギンイチモンジセセリの発生も認められたが、その発生は比較的安定しており、高標高地のため 6 月だけの年 1 化性であった。三国山方面はややまとまった荒地や草地が存在するため、より多くの草原性の種類などが確認された。草地環境を保持すれば、今後も安定した個体群の維持が望めるものと考えられた。津久井町神ノ川方面ならびに同町伊勢沢では、林道沿いの崖地や荒廃した斜面の法面などに生息するツマジロウラジヤノメを記録したが、個体数は多くなかった。荒廃斜面の維持管理が有効な保護対策かと考えられる。西丹沢の世附から大又沢にかけての一帯は、コムラサキ、ホソバセセリ、シータテハ、オオムラサキ、アオバセセリ、ミヤマチャバネセセリ、スミナガシなどの絶滅に準ずる希少な種類が確認された。現地では、まだ豊かな樹林相を維持し草地も残っていることが、多くのタテハチョウ類やセセリチョウ類の生存を支えているものと推察した。

(1) はじめに

神奈川県内に分布する蝶類の中には、その生息場所や生息個体数などが諸要因によって制約されることで、安定的な生存や種の存続が危ぶまれている種類（いわゆるレッドデータ蝶類、以後希少蝶類と称する）が少なからず存在する。とりわけ丹沢山地にはこれらの種類が集中的に生息しているが、丹沢山地は元来草地環境に乏しく、草地や疎林など明るい自然環境を生息場所とする種類は、生息基盤そのものが脆弱である。このため、今回の丹沢大山総合調査では、過去の記録を基に希少蝶類に選定された種類についてのモニタリング調査を実施し、現在の生息状況の現況を把握することを試みた。合わせて調査結果から考察しうるこれらの希少種蝶類の保護・保全対策への提言を行うことにした。

(2) 調査方法

A. 調査対象種

調査の実施に当たり、当初は美ノ谷ほか (1992) および美ノ谷・岩野 (2003) によって報告された神奈川県レッドデータ種を調査対象種として、この中で丹沢山地に産する種類を中心として調査を行ったが、最近になって中村・高桑 (2006) が、新たに選定した「神奈川県レッドデータ

生物調査報告書」が発刊されたので、この報告書に準拠して丹沢山地に産する対象種を絞り、結果をまとめ直した。今回モニタリング調査の実施対象種は、次の通りであるが、各ランク分けしたカテゴリーの中で、調査対象地に産しない種類については、今回の調査では対象外として除外した。

【調査対象とした希少蝶類】

a. 危惧 I A 類 (CR) 4 種

ホシチャバネセセリ・スジグロチャバネセセリ・ヤマキチョウ・キマダラモドキ

b. 絶滅危惧 I B 類 (EN) 6 種

ヘリグロチャバネセセリ・ヒメシロチョウ・ウラギンスジヒョウモン・クモガタヒョウモン・ホシミスジ・コムラサキ

c. 絶滅危惧 II 類 (VU) 5 種

ホソバセセリ・ウラギンヒョウモン・アサマイチモンジ・シータテハ・クジャクチョウ

d. 準絶滅危惧 (NT) 5 種

ギンイチモンジセセリ・スジボソヤマキチョウ・ミドリシジミ・オオウラギンスジヒョウモン・オオムラサキ

e. 要注意種 4 種

アオバセセリ・ミヤマチャバネセセリ・スミナガシ・ツマジロウラジヤノメ

B. 調査内容

2004 年春から 2006 年の夏季にかけて、丹沢各地の生息地、特に神奈川県西北部と山梨県境の稜線部に当たる三国峠～明神峠までの一帯（本報では「三国峠」と表記す

1) 日本大学生物資源科学部応用昆虫学研究室 2) 相模の蝶を語る会

る)から切通峠～高指山～バラシマ峠～北方ピークまでの一帯(同じく「高指山」と表記する)さらには津久井町神ノ川林道付近(同じく「神ノ川」と表記する)にかけての西丹沢・裏丹沢方面において重点的な現地調査を行った。調査はできるだけ目視によって種名を確認したが、目視では同定困難な種については捕虫網を用いて捕獲確認した。各調査対象種を目撃・採集した記録報告は、記録数が膨大となるためにすべての記録を網羅できなかったが、できる限りの記録を選抜して記載した。なお、調査結果に記載した確認個体数は、目撃あるいは採集にかかわらず、確認できた個体数として表記した。

(3) 調査結果

A. 結果概要

丹沢山地における調査対象地域では、そこに生息している蝶類の希少種が今回の調査で、ほぼ予想されたすべての種類の生息を確認することができたものの、種類によっては確認頭数が少なく、またその生息環境の悪化や狭小化に伴い個体数が減少し、個体群維持が危機的状況に陥っていると考えられる事例も認められた。山北町高指山一帯から三国峠方面にかけての県境付近には、わずかながらも草原や疎林を含む草地環境が認められ、ヤマキチョウ、スジボソヤマキチョウ、ヒメシロチョウ、ホシミスジ、ウラギンヒョウモン、ウラギンズジヒョウモン、オオウラギンズジヒョウモン、クモガタヒョウモン、キマダラモドキ、アサマイチモンジ、クジャクチョウ、スミナガシ、ホシチャバネセセリ、スジグロチャバネセセリ、ヘリグロチャバネセセリ、ギンイチモンジセセリ、アオバセセリなど、多くの種類の希少種がこれらの場所から記録された。

まず、高指山一帯に至る県境の尾根道は、高压電線の保守管理ならびに東海自然歩道の登山道管理のために尾根筋が草刈りされることによって管理道が確保され、その結果としてパッチ状にススキやわずかばかりの草地が残存し、刈り取られた後に形成された草地上の空間が、希少種の蝶たちにとっては貴重な飛翔空間を提供している。しかしながら、草刈りが行われないと、雑草等が繁茂して蝶たちの食草や飛翔空間を被覆してしまうという、きわめて不安定な場所でもある。この限られた草地や空間を利用しているのが、ホシチャバネセセリやスジグロチャバネセセリ、ヤマキチョウなどであるが、今回の調査は、懸命の調査にもかかわらず確認記録が1～数例にすぎなかったため、その生息個体数は極めて少ないものと推察された。これら3種は、絶滅危惧ⅠA類に選定されているが、神奈川県内では高指山一帯付近を中心とした山北町にしか生息していないため、特に種そのものの保護とセセリチョウ類の食草であるススキ群落を含めた生息環境の保全対策が強く望まれる。また、尾根筋の同じ空間には、ヒメシロチョウやホシミスジといった絶滅危惧ⅠB類に選定された種類にとっても、好適な生息の場所となっていた。ヒメシロチョウは尾根道沿いや草地脇にわずかに点在するツルフジバカマに依存して生活し、またホシミスジは同じく登山道や尾根道沿いにのみ細々と残存するシモツケの葉を食しているが、これらの食草は草刈り時にその原形をとどめないほど他の草と一緒に刈り取られてしまうため、幼虫数の激減などのダメージが極めて大きいものと思われる。高指山一帯の尾根筋沿いの疎林内には、県内でもここでしか見ることのできないキマダラモドキが

生存しているが、疎林の減少や樹林の繁茂による林内の暗黒化などに伴い、生存可能な疎林空間の確保が困難になってきているため、今後はさらに個体群の維持が危ぶまれるだろう。高指山山頂付近一帯には、ややまとまったススキ群落が広がっているため、ここでは各種のヒョウモン類の飛翔が確認でき、多数のギンイチモンジセセリが発生していることが確認された。後者は、年1化性で6月の発生となるが、広範に発生しているため、ススキ原が供給源として確保できれば安定的な発生が期待できると思われる。

三国峠方面は高指山一帯に比べると、明神山への登山道付近を中心としてややまとまった荒地や草地が存在するため、蝶たちにとっては、より好適な生存空間を与えているようである。そのため、より幅広い種類の蝶たちが存在している。ヘリグロチャバネセセリ、スジボソヤマキチョウ、ヒョウモン類、クジャクチョウ、アサマイチモンジ、アオバセセリなどが記録された。草地環境の保持に努めれば、今後も安定した個体群の維持が望めるだろう。

次に、津久井町神ノ川では、コムラサキ、ミドリシジミ、ツマジロウラジャノメ、アオバセセリなどの希少蝶類が記録された。特にツマジロウラジャノメは、要注意種としてランクは下位に選定されているが、県内では分布地が限定され、今回の調査では神ノ川流域付近と津久井町伊勢沢の2地点だけから生息が確認されたが、その分布域は極めて狭小で、しかも確認できた個体数は決して多くはなかった。その点でも本種の衰亡を抑えて、保全することが肝要であると思われる。ツマジロウラジャノメは、5～6月にかけての第1化と8～9月にかけての2化目の年2回の発生が認められた。成虫の生息環境は、林道沿いの崖地や荒廃した斜面の法面などに限られているが、これはイネ科食草がこのような荒廃斜面や法面などを好んで繁茂するため、本種の生存にはかえって都合が良い環境を与えていると考えられた。よって、林道沿いの荒廃斜面を適度に放置するといった維持管理を図ることが有効な保護対策となるであろう。神ノ川林道の発生地へは、林業従事者優先や林道の機能保持、荒廃林道の通行危険回避などのため、一般車両の通行が禁止されているが、これも入山者を規制し、本種個体群の維持のためには効果的な手段になるかもしれない。絶滅危惧ⅠB類に選定されているコムラサキは、神ノ川上流域の林道にて発見されたが、それ以外にも、西丹沢・世附から大又沢方面にかけての山間地に分布することが確認できたものの個体数は多くなかった。

西丹沢方面には、明神山から高指山にかけての稜線沿いだけでなく、その山並みの山麓部に位置する世附から大又沢方面にかけての一帯にも、多種類の貴重な蝶たちが生息している。コムラサキ、ホソバセセリ、シータテハ、オオムラサキ、アオバセセリ、ミヤマチャバネセセリ、スミナガシなどの絶滅危惧状態に準ずる希少な種にランクされた種類が記録された。沢沿いの林道一帯は、スギの植林が広がっているものの、多くの広葉樹を含む豊かな樹林相を維持しているため、林縁には樹林地を生息場所とする多くのタテハチョウ類が確認された。アオバセセリやスミナガシの食樹であるアワブキも、沢筋に沿って散見された。今回の調査では、ホソバセセリとミヤマチャバネセセリが大又沢から世附にかけての一帯で記録されたが、両種とも県内の平野部での発生は減少傾向にあるようだが、丹沢の山間地では、まだ健在であったことを示している。生息地にはスス

キ群落などの食草が点在し、また草刈りなどの人為的圧力があまり加わっていないために、個体数が少ないながらも、比較的安定した発生を繰り返していると考察した。

B. 確認記録

a. 絶滅危惧 I A 類 (CR) 4 種

ホシチャバナセセリ *Aeromachus inachus* (Menetries) (セセリチョウ科)

発生期は7月下旬頃であるが、わずか2例のみしか確認できなかった。個体数は極めて少なく、尾根に沿った登山道沿いのススキが発生源と考えられるが、生息範囲は狭く、将来の絶滅が懸念される。1♂, 山北町三国峠, 22. VII. 2004, 山本嘉彰; 1♂, 山北町高指山, 25. VII. 2005, 山本嘉彰。

スジグロチャバナセセリ *Thymelicus leoninus leoninus* (Butler) (セセリチョウ科)

確認頭数は1例のみで、高指山の稜線沿いの草地付近で記録された。生息個体数は希少蝶類の中でも一番少ないと思われる。将来への継続的な世代の交代が心配される。食草であるススキ管理と林縁沿いの生息空間の確保が課題であろう。1♂, 山北町高指山, 22. VII. 2004, 山本嘉彰。

ヤマキチチョウ *Gonepteryx rhamni maxima* Butler (シロチョウ科)

高指山付近で6月下旬頃に数頭が記録されたが、食樹のクロツバラは未確認である。恐らくは神奈川県内で発生しているのではなく、隣接する山梨県側の草原環境に自生する食樹で発生した個体が、県境付近まで飛来する可能性が強いと考えている。1♀, 山北町高指山, 22. VI. 2004, 山本嘉彰; 2♂, 山北町高指山, 25. VI. 2005, 山本嘉彰。

キマダラモドキ *Kirinia epaminondas* (Staudinger) (ジャノメチョウ科)

本種の生息地は、高指山山頂付近の疎林内や稜線沿いのやや暗い林縁部であるが、疎林の減少ならびに樹木の繁茂による林内の暗黒化などにより、個体数は減少傾向にある。7月下旬～8月上旬に発生する。2♂2♀, 山北町明神山, 22. VII. 2004, 菅井忠雄; 1♂1♀, 山北町高指山, 4. VIII. 2004, 山本嘉彰; 多数, 山北町高指山, 8. VIII. 2004, 山本嘉彰; 5♂, 山北町高指山, 7. VIII. 2005, 岩野秀俊; 4♂, 山北町高指山, 23. VIII. 2005, 菅井忠雄。

b. 絶滅危惧 I B 類 (EN) 6 種

ヘリグロチャバナセセリ *Thymelicus sylvaticus sylvaticus* (Bremer) (セセリチョウ科)

近縁種のスジグロチャバナセセリよりは、やや広範囲に分布するが、個体数は決して多くはない。保護対策としてはススキ群落を含む生息環境の保全を図る必要がある。1♂1♀, 山北町高指山, 22. VII. 2004, 山本嘉彰; 1♂, 山北町三国峠, 9. VII. 2005, 岩野秀俊; 1♂, 山北町高指山, 3. VIII. 2005, 美ノ谷憲久。

ヒメシロチョウ *Leptidia amurensis* (Menetries) (シロチョウ科)

県内における本種の確実な発生地は、三国峠ならびに高指山付近だけと思われる。成虫は稜線に沿った草地で、弱々しく飛翔している。4月から9月までほぼ連続的に発生しているようであるが、化性については不明である。稜線沿いの高圧線管理ならびに東海自然歩道管理のための登山道の草刈によって、ツルフジバカマが刈り取られることで、一時的に食樹が消失してしまい、個体群の維持に影響

を与えている恐れがある。2♂, 山北町三国峠, 22. IV. 2004, 菅井忠雄; 1ex., 山北町高指山, 22. VI. 2004, 山本嘉彰; 1ex., 山北町高指山, 24. VI. 2004, 山本嘉彰; 1♀, 山北町高指山, 8. VII. 2004, 山本嘉彰; 1ex., 山北町高指山, 4. VIII. 2004, 山本嘉彰; 1ex., 山北町高指山, 16. VIII. 2004, 山本嘉彰; 1ex., 山北町高指山, 26. VIII. 2004, 山本嘉彰; 1♀, 山北町高指山, 17. V. 2005, 菅井忠雄; 1♀, 山北町高指山, 18. V. 2005, 山本嘉彰; 2♂, 山北町高指山, 9. VII. 2005, 山本嘉彰; 2♂1♀, 山北町三国峠, 9. VII. 2005, 岩野秀俊; 1♂, 山北町高指山, 10. VII. 2005, 菅井忠雄; 多数, 山北町高指山, 23. VIII. 2005, 菅井忠雄; 1♂, 山北町高指山, 10. IX. 2005, 岩野秀俊。

ウラギンスジヒョウモン *Argyronome laodice japonica* (Menetries) (タテハチョウ科)

高指山付近の草原環境でのみ記録された。7月下旬から8月下旬にかけて発生し、個体数は多くはないが、安定して発生している。1ex., 山北町高指山, 16. VIII. 2004, 山本嘉彰; 1♂, 山北町高指山, 26. VIII. 2004, 山本嘉彰; 1♂, 山北町高指山, 25. VII. 2005, 山本嘉彰; 2♂, 山北町高指山, 3. VIII. 2005, 美ノ谷憲久; 2♂, 山北町高指山, 7. VIII. 2005, 岩野秀俊; 1♀, 山北町高指山, 23. VIII. 2005, 山本嘉彰。

クモガタヒョウモン *Nephargynnis anadyomene midas* (Butler) (タテハチョウ科)

分布範囲は幅広く、恐らくは西丹沢一帯に広く分布していると思われるが、本種は成虫で夏眠するため、夏期の記録は少なくなり、確認できた記録は6月から7月の発生期に集中している。記録された頭数は少ないものの、今後とも比較的安定した発生は継続可能であろう。1♂, 山北町高指山, 4. VI. 2004, 菅井忠雄; 1ex., 山北町高指山, 19. VI. 2004, 菅井忠雄; 3♂, 津久井町神ノ川, 19. VI. 2005, 岩野秀俊; 1♀, 山北町高指山, 7. VII. 2006, 菅井忠雄; 1♂, 山北町大又沢, 19. VIII. 2005, 山本嘉彰。

ホシミスジ *Neptis pryri iwasei* Fujioka (タテハチョウ科)

現在確実な県内での分布地は、西丹沢の高指山から三国峠にかけての稜線沿いだけといって過言ではない。現地に細々と自生している食樹のシモツケに依存して発生を繰り返しているが、草刈の際に強剪定されるため、幼虫個体群への悪影響は少なくない。成虫の発生は、一般的に年1化性と考えられているが、6月から8月にかけてほぼ断続的に成虫が記録されているので、幼虫の生育のズレによる断続的な連続発生の可能性も強いが、場合によっては年2化発生する可能性も残されている。いずれにしろ、夏期以降の草刈の実施は、シモツケ葉上にいる次世代を担う越冬性の幼虫個体数の激減に直結するため、回避すべきである。1ex., 山北町高指山, 22. VI. 2004, 山本嘉彰; 1♂, 山北町三国林道, 24. VI. 2004, 山本嘉彰; 多数, 山北町高指山, 8. VII. 2004, 山本嘉彰; 1ex., 山北町高指山, 4. VIII. 2004, 山本嘉彰; 1ex., 山北町高指山, 8. VIII. 2004, 山本嘉彰; 1ex., 山北町高指山, 16. VIII. 2004, 山本嘉彰; 3幼虫, 山北町高指山, 15. IX. 2004, 岩野秀俊; 1ex., 山北町高指山, 19. VI. 2005, 岩野秀俊; 4exs., 山北町高指山, 3. VII. 2005, 菅井忠雄; 2exs., 山北町高指山, 10. VII. 2005, 菅井忠雄; 1ex., 山北町高指山, 29. VII. 2005, 菅井忠雄; 1♂1♀, 山北町高指山, 3. VIII. 2005, 美ノ谷憲久; 1♀, 山北町高指山, 5. VIII. 2005, 美ノ谷憲久; 2exs., 山北町高

指山, 7. VIII. 2005, 岩野秀俊; 1♂2♀, 山北町高指山, 23. VIII. 2005, 菅井忠雄; 1幼虫, 山北町高指山, 10. IX. 2005, 岩野秀俊; 3exs., 山北町高指山, 7. VII. 2006, 菅井忠雄.

コムラサキ *Apatura meris substitute* Butler (タテハチョウ科)

山間部沢筋の上流域付近の林道にて確認されたが, 西丹沢での生息域は世附から大又沢にかけての帯ならびに津久井町神ノ川林道に限定されていた. 林道沿いには食樹となるヤナギ類が散見できるものの, 多産することはないので, 各所に低密度で分布しているものと思われる. 1♂1♀, 山北町大瀬沢, 16. VII. 2004, 山本嘉彰; 1ex., 津久井町神ノ川, 24. VIII. 2004, 山本嘉彰; 1ex., 津久井町神ノ川, 2. IX. 2004, 山本嘉彰; 1ex., 山北町大又沢, 22. VII. 2005, 菅井忠雄; 1♀, 山北町世附, 12. VIII. 2005, 菅井忠雄.

c. 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 5種

ホソバセセリ *Isoeteon lamprospilus lamprospilus* C. Felder & R. Felder (セセリチョウ科)

今回の調査では, 世附から大又沢の林道林縁や付近の草地にて得られた. 過去の記録では高指山 (1♂採集, 山北町高指山, 3. VIII. 2002, 山本嘉彰) から得られている. 現地では, 少ないながらも食草となるススキ群落が点在して残っているため, 細々として発生を繰り返しているものと推察した. しかしながら, 本種は県内の平野部では減少傾向にあるため, 西丹沢での山間部の発生動向についても, 今後十分な追跡調査をする必要がある. 1♂, 山北町大又沢, 1. VIII. 2005, 岩野秀俊; 2exs., 山北町世附, 3. VIII. 2005, 菅井忠雄; 3exs., 山北町世附, 12. VIII. 2005, 菅井忠雄.

ウラギンヒョウモン *Fabriciana adippe pallescens* (Butler) (タテハチョウ科)

県境の山頂付近に, 広く生息していて, 個体数も多い. 発生数も比較的多いようであり, 現地の草地や草原環境が維持できれば, 安定した発生が継続できると思われる. 1♂, 山北町高指山, 22. VI. 2004, 山本嘉彰; 1ex., 山北町高指山, 8. VII. 2004, 山本嘉彰; 1♂, 山北町高指山, 15. IX. 2004, 岩野秀俊; 5♂1♀, 山北町高指山, 19. VI. 2005, 岩野秀俊; 1ex., 山北町三国峠, 3. VII. 2005, 菅井忠雄; 多数, 山北町高指山, 3. VII. 2005, 菅井忠雄; 3♂1♀, 山北町三国峠, 9. VII. 2005, 岩野秀俊; 多数, 山北町高指山, 10. VII. 2005, 菅井忠雄; 1♂, 山北町地蔵平, 1. VIII. 2005, 山本嘉彰; 2♂, 山北町高指山, 3. VIII. 2005, 美ノ谷憲久; 2♂, 山北町高指山, 5. VIII. 2005, 美ノ谷憲久; 1ex., 山北町高指山, 23. VIII. 2005, 菅井忠雄; 2♂4♀, 山北町高指山, 10. IX. 2005, 岩野秀俊; 1♀, 山北町高指山, 12. IX. 2005, 山本嘉彰; 5♂, 山北町高指山, 7. VII. 2006, 菅井忠雄.

アサマイチモンジ *Ladoga glorifica* (Fruhstofer) (タテハチョウ科)

県内の平野部では激減しているが, 西丹沢一帯の山間部ではまだ健在のようであった. 成虫は林縁付近を飛翔していることが多い. 多数, 山北町高指山, 16. VIII. 2004, 山本嘉彰; 1♀, 山北町高指山, 26. VIII. 2004, 山本嘉彰; 山北町高指山, 25. VI. 2005, 山本嘉彰; 2exs., 山北町高指山, 3. VII. 2005, 菅井忠雄; 1ex., 山北町高指山, 10. VII. 2005, 菅井忠雄; 1ex., 山北町三国峠, 10. VII. 2005, 菅井

忠雄; 1♂, 山北町地蔵平, 1. VIII. 2005, 山本嘉彰; 1♂, 山北町高指山, 7. VIII. 2005, 山本嘉彰; 2exs., 山北町世附, 12. VIII. 2005, 菅井忠雄; 1♂1♀, 山北町高指山, 23. VIII. 2005, 菅井忠雄.

シータテハ *Polygonia c-album hamigera* (Butler) (タテハチョウ科)

林道の沢筋で, まれに記録される程度であり, わずか3例のみの確認にとどまった. 個体数は決して多くはないが, 春季の越冬明けの移動個体でなく夏季に得られているので, 確実に丹沢方面にも分布していると考えたほうが妥当である. 1♂, 津久井町伊勢沢, 28. III. 2004, 山本嘉彰; 1ex., 山北町世附, 29. VII. 2005, 菅井忠雄; 1ex., 山北町世附, 19. VIII. 2005, 菅井忠雄.

クジャクチョウ *Inachis io geisha* (Stichel) (タテハチョウ科)

県境付近の稜線沿いにある明るい疎林地と草地環境などで確認されたが, 個体数は多くはない. 本種は移動性が強いが, 発生期と考えられる7月から8月にかけて現地で記録されているため, 丹沢の山間部で発生しているのは, 間違いないと思われる. 1ex., 山北町高指山, 16. VIII. 2004, 山本嘉彰; 1ex., 山北町高指山, 3. VII. 2005, 菅井忠雄; 1ex., 山北町三国峠, 3. VII. 2005, 菅井忠雄; 1♂, 山北町三国峠, 9. VII. 2005, 山本嘉彰; 2exs., 山北町高指山, 10. VII. 2005, 菅井忠雄; 1ex., 山北町高指山, 23. VIII. 2005, 菅井忠雄.

d. 準絶滅危惧 (NT) 5種

ギンイチモンジセセリ *Leptalina unicolor* (Bremer & Grey) (セセリチョウ科)

高指山山頂付近や登山道脇のススキ原などに広く生息している. 発生は高標高地のため6月上中旬頃の年1回であるが, 現地では個体数も多く, 発生は安定している. 3exs., 山北町高指山, 4. VI. 2004, 菅井忠雄; 4exs., 山北町高指山, 14. VI. 2004, 菅井忠雄; 1ex., 山北町高指山, 19. VI. 2004, 菅井忠雄; 1♂, 山北町高指山, 22. VI. 2004, 山本嘉彰; 10♂4♀, 山北町高指山, 19. VI. 2005, 岩野秀俊. **スジボソヤマキチョウ** *Gonepteryx aspasia nipponica* Bollow (シロチョウ科)

西丹沢の県境付近にある疎林を含む明るい草地環境に好んで生息しているようで, その分布範囲も広い. 疎林地には食樹となるクロウメドキも点在し, 生息環境は今のところ良好であった. 県境以外の調査地からは発見されていないため, 近縁のヤマキチョウ保護も含めて, 現地での疎林・草原環境の保全対策が課題であろう. 2♀, 山北町高指山, 22. IV. 2004, 菅井忠雄; 1♀, 山北町三国峠, 22. IV. 2004, 菅井忠雄; 1ex., 山北町高指山, 22. VI. 2004, 山本嘉彰; 1♂1♀, 山北町三国峠, 24. VI. 2004, 山本嘉彰; 1ex., 山北町高指山, 8. VII. 2004, 山本嘉彰; 1ex., 山北町三国峠, 16. VII. 2004, 山本嘉彰; 1♂1♀, 山北町明神山, 8. VIII. 2004, 菅井忠雄; 1♀, 山北町高指山, 21. IV. 2005, 菅井忠雄; 1♂2♀, 山北町三国峠, 30. IV. 2005, 菅井忠雄; 1♀, 山北町高指山, 17. V. 2005, 菅井忠雄; 1♂, 山北町三国峠, 10. VII. 2005, 菅井忠雄; 1♀, 山北町高指山, 10. VII. 2005, 菅井忠雄; 多数, 山北町三国峠, 29. VII. 2005, 菅井忠雄; 1♂, 山北町高指山, 3. VIII. 2005, 美ノ谷憲久; 1♂1♀採集, 山北町高指山, 4. VIII. 2005, 山本嘉彰; 1♂, 山北町高指山, 5. VIII. 2005, 美ノ谷憲久; 2♀,

山北町三国峠, 7. VIII. 2005, 岩野秀俊; 1 ♂ 6 ♀, 山北町高指山, 10. IX. 2005, 岩野秀俊; 3 ♂ 7 ♀, 山北町三国峠, 10. IX. 2005, 岩野秀俊.

ミドリシジミ *Neozephyrus japonicus* (Murray) (シジミチョウ科)

わずか 2 例の確認記録しか得られなかったものの、丹沢山間部での生息を確認できた。県内の平野部での激減傾向が著しいため、準絶滅危惧種に選定されたが、まだ丹沢では低密度ながら、広く分布していると考えられる。1 ♀, 津久井町神ノ川, 2. IX. 2004, 山本嘉彰; 1 ♂, 山北町高指山, 23. VIII. 2005, 山本嘉彰.

オオウラギンスジヒョウモン *Argyronome ruslana lysippe* (Janson) (タテハチョウ科)

高指山から三国峠方面にかけての疎林・草地環境に広く分布し、個体数もウラギンスジヒョウモンよりは多いようである。個体群密度は比較的高く、生息地では安定的な発生を繰り返している。1ex., 山北町切通沢, 16. VII. 2004, 山本嘉彰; 1ex., 山北町高指山, 16. VIII. 2004, 山本嘉彰; 1ex., 山北町高指山, 26. VIII. 2004, 山本嘉彰; 1 ♂, 山北町三国峠, 9. VII. 2005, 岩野秀俊; 1 ♂, 山北町高指山, 3. VIII. 2005, 美ノ谷憲久; 1 ♂ 1 ♀, 山北町高指山, 4. VIII. 2005, 山本嘉彰; 1ex., 山北町高指山, 5. VIII. 2005, 美ノ谷憲久; 2 ♂ 1 ♀, 山北町高指山, 7. VIII. 2005, 岩野秀俊; 1 ♂, 山北町三国峠, 7. VIII. 2005, 岩野秀俊; 2 ♀, 山北町高指山, 10. IX. 2005, 岩野秀俊.

オオムラサキ *Sasakia charonda charonda* (Hewitson) (タテハチョウ科)

山間地の林道沿いにあるクヌギ樹液などに飛来する。生息個体数は決して多くはないが、世附から大又沢などの西丹沢一帯にかけては、広く分布するものと思われる。2exs., 山北町大又沢, 22. VII. 2005, 菅井忠雄; 1 ♂ 1 ♀, 山北町大野山, 1. VIII. 2005, 岩野秀俊; 1 ♂, 山北町大又沢, 1. VIII. 2005, 岩野秀俊; 3exs., 山北町世附, 2. VIII. 2005, 菅井忠雄; 1 ♂, 山北町世附, 3. VIII. 2005, 菅井忠雄.

e. 要注意種 4 種

アオバセセリ *Chaospes benjaminii japonica* (Murray) (セセリチョウ科)

成虫は移動性があるため、山頂付近から林道の沢筋にいたるまで、広範囲にわたって確認された。西丹沢一帯に広く分布し、個体数も多いので、今後も安定した個体数の供給が期待できそうである。1ex., 山北町明神山, 22. VII. 2004, 山本嘉彰; 1 幼虫, 津久井町鳥屋, 13. VII. 2005, 菅井忠雄; 1ex., 山北町大又沢, 22. VII. 2005, 菅井忠雄; 1ex., 山北町世附, 29. VII. 2005, 菅井忠雄; 1ex., 山北町三国峠, 29. VII. 2005, 菅井忠雄; 多数, 山北町世附, 2. VIII. 2005, 菅井忠雄; 多数, 山北町世附, 3. VIII. 2005, 菅井忠雄; 1 ♂, 山北町高指山, 7. VIII. 2005, 岩野秀俊; 1 ♂, 山北町三国峠, 7. VIII. 2005, 岩野秀俊; 多数 ♂ 1 ♀, 山北町世附, 12. VIII. 2005, 菅井忠雄; 1 ♀, 山北町高指山, 23. VIII. 2005, 山本嘉彰; 1ex., 津久井町神ノ川, 5. IX. 2005, 菅井忠雄; 5exs., 山北町世附, 29. V. 2006, 菅井忠雄; 5exs., 山北町世附, 31. V. 2006, 菅井忠雄; 5exs., 津久井町神ノ川, 13. VI. 2006, 菅井忠雄; 1ex., 山北町高指山, 7. VII. 2006, 菅井忠雄.

ミヤマチャバネセセリ *Pelopidas jansonis* (Butler) (セセリチョウ科)

世附から大又沢の林道沿いのややまとまったススキ群落のみで確認されていて、他所からは得られていない。しかし過去の記録では、高指山での確実な目撃記録 (1 ♀, 山北町高指山, 10. VIII. 2002, 山本嘉彰) があり、西丹沢一帯に少ないながらも広く分布している可能性がある。草刈などの人為的圧力の影響が少ないため、生息地では、細々と発生を繰り返していると思われる。5 月頃の春季と 8 月上旬頃の夏季に得られているので、年 2 化性の発生サイクルを示唆している。1ex., 山北町地蔵平, 8. V. 2005, 菅井忠雄; 1 ♂ 採集, 山北町大又沢, 1. VIII. 2005, 山本嘉彰; 1exs., 山北町世附, 3. VIII. 2005, 菅井忠雄; 1 ♀, 山北町世附, 12. VIII. 2005, 菅井忠雄; 1ex., 山北町世附, 31. V. 2006, 菅井忠雄.

スミナガシ *Dichorragia nesimachus nesiotus* Fruhstorfer (タテハチョウ科)

山地性の蝶であり、林道で吸水したり、県境沿いの林縁葉上などでテリトリーを張っている個体を多くみかけることができた。西丹沢一帯に広く分布するものと考えられる。春季と夏季の年 2 回発生する。1 ♂, 山北町高指山, 16. VIII. 2004, 山本嘉彰; 1 ♂ 1 ♀, 山北町大又沢, 1. VIII. 2005, 岩野秀俊; 1 ♀, 山北町地蔵平, 1. VIII. 2005, 山本嘉彰; 4 ♂, 山北町高指山, 7. VIII. 2005, 岩野秀俊; 1ex., 山北町世附, 31. V. 2006, 菅井忠雄.

ツマジロウラジャノメ *Lasiommata deidamia interrupta* (Fruhstorfer) (ジャノメチョウ科)

西丹沢や裏丹沢方面では生息場所は局限されている。生息地は林道沿いの崖地あるいは荒廃した斜面の法面などに限られているので、生息環境としては林道開発や林道の整備などによる人為的影響を受けやすく、極めて不安定な状況にある。4 種の要注意種の中では、一番絶滅危惧状態になる恐れが強く、カテゴリーのランクアップを検討すべきである。1 ♂, 津久井町神ノ川, 24. VIII. 2004, 山本嘉彰; 1ex., 津久井町神ノ川, 2. IX. 2004, 山本嘉彰; 2 ♂, 津久井町伊勢沢, 29. V. 2005, 山本嘉彰; 1 ♂ 1 ♀, 津久井町神ノ川, 7. VI. 2005, 山本嘉彰; 1 ♀, 津久井町神ノ川, 19. VI. 2005, 岩野秀俊; 1 ♀, 津久井町神ノ川, 4. IX. 2005, 山本嘉彰; 1 ♂ 2 ♀, 津久井町神ノ川, 5. IX. 2005, 菅井忠雄; 1 ♂, 津久井町神ノ川, 13. VI. 2006, 菅井忠雄.

文 献

- 美ノ谷憲久・原 聖樹・岩野秀俊, 1993. 日本産蝶類県別レッドデータ・リスト (1992 年) 14. 神奈川県. 日本産蝶類の衰亡と保護 第 2 集, pp.40-41. 日本鱗翅学会・日本自然保護協会.
- 美ノ谷憲久・岩野秀俊, 2003. 日本産蝶類県別レッドデータ・リスト (2002 年) 14. 神奈川県. 日本産蝶類の衰亡と保護 第 5 集, pp.48-53. 日本鱗翅学会.
- 中村進一・高桑正敏, 2006. チョウ類. 高桑ほか編, 神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006, pp.405-416. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原.